

# ＜豚熱対策＞使用対象別、代表的な消毒薬と使用方法

【作成：長野県松本家畜保健衛生所】

使用対象	代表的な消毒薬の種類	代表的な消毒薬の成分	使用方法	使用濃度（夏季）	使用濃度（冬季）	備考
手 指	アルコール類	エタノール (イソプロパノール)	手指に噴霧後、乾燥するまですり込む	70～95% (イソプロパノールは50～70%)	同左	逆性石けん(動物用医薬品)も同等の効果あり
踏込消毒槽	①ハロゲン塩（塩素系） ②複合（フェノール系） ③両性石けん	①ペルオキソ-硫酸カリウム + 塩化ナトリウム	①有機物を除去した後、希釈した薬剤に浸漬する（～30秒間）	①有効塩素量で表した酸化力として0.1%	①微温湯で左記濃度に調整	
長 靴	①逆性石けん ②両性石けん	① [モノ、ビス（塩化トリメチルアンモニウムメチレン）] -アルキル (C <sub>9</sub> - <sub>15</sub> ) トルエン	①有機物を除去した後、希釈した薬剤を清拭、または希釈した薬剤に浸漬する（30分以上）	①清拭：有効成分として0.1% 浸漬：有効成分として0.05%	①微温湯で左記濃度に調整、または水で次の濃度に調整 清拭：有効成分として0.2% 浸漬：有効成分として0.1%	
作業着	①逆性石けん ②両性石けん ③ハロゲン塩（塩素系）	①塩化ジデシルジメチルアンモニウム	①有機物を除去した後、希釈した薬剤に浸漬する（30分以上）	①有効成分として0.01%	①微温湯で左記濃度に調整、または水で次の濃度に調整 有効成分として0.02%	
器 具 (金属)	①逆性石けん ②両性石けん	①塩化ジデシルジメチルアンモニウム	①有機物を除去した後、希釈した薬剤を散布、または希釈した薬剤に浸漬する（30分以上）	①散布：有効成分として0.005% 浸漬：有効成分として0.01%	①微温湯で左記濃度に調整、または水で次の濃度に調整 散布：有効成分として0.01% 浸漬：有効成分として0.02%	
器 具 (プラスチック)	①逆性石けん ②両性石けん ③ハロゲン塩（塩素系）					
器 具 (木製)	①逆性石けん ②両性石けん ③ハロゲン塩（塩素系）					
畜 舎	逆性石けん	塩化ジデシルジメチルアンモニウム	有機物を除去した後、希釈した薬剤を適量散布、または発泡機を用いて散布する	適量散布：有効成分として0.01% 発泡散布：有効成分として0.1%	微温湯で左記濃度に調整、または水で次の濃度に調整 適量散布：有効成分として0.02% 発泡散布：有効成分として0.2%	
畜舎周囲 (地面)	アルカリ	消石灰、 ドロマイト石灰	土壌または床面が白くなるように散布し、維持する また石灰乳として使用する（ドロマイト石灰）	粉末の状態直接散布 (1㎡あたり0.5～1.0kg) 石灰乳は水1,000mLに100g以上	同左	雨や長時間の放置で効果がなくなるので、頻りに撒き直しが必要
車 両	逆性石けん	[モノ、ビス（塩化トリメチルアンモニウムメチレン）] -アルキル (C <sub>9</sub> - <sub>15</sub> ) トルエン	有機物を除去した後、希釈した薬剤を適量散布する	有効成分として0.02%	微温湯で左記濃度に調整	荷台及びタイヤ周り並びにフロアマットの表面・裏面を中心に消毒する 
飲用水	①ハロゲン塩（塩素系） ②ハロゲン塩（ヨウ素系）	①ジクロロイソシアヌル酸ナトリウム	①飲水に薬剤を希釈する	①有効成分として0.01%	①同左	飲水消毒後1日間（製品によって異なる）は、食用に供する目的で出荷することができない
畜 体	①逆性石けん ②ハロゲン塩（塩素系） ③ハロゲン塩（ヨウ素系）	①塩化ジデシルジメチルアンモニウム	①有機物を除去した後、希釈した薬剤を畜体に直接噴霧する	①有効成分として0.01%	①微温湯で左記濃度に調整、または水で次の濃度に調整 有効成分として0.02%	逆性石鹸については、畜体消毒後5日間（製品によって異なる）は、食用に供する目的で出荷することができない

※表中には、代表的な消毒薬の種類と成分を記載しています  
 ※※消毒薬の使用前には有機物を除去し、しっかりと水洗しましょう



長野県松本家畜保健衛生所  
 所長：宮澤隆 防疫課長：森野なつ樹  
 病性鑑定課長：矢彦沢小百合 担当：片倉裕喜  
 〒390-0851 長野県松本市島内西川原6931  
 TEL：0263-47-3223  
 FAX：0263-47-0101  
 電子メールmatsukachiku@pref.nagano.lg.jp  
<https://www.pref.nagano.lg.jp/matsukachiku/index.html>